

特定非営利活動法人(NPO)

日本タイポグラフィ協会

Japan Typography Association



文字だからできること、 文字にしかできないことを 求め続けて。

私たちの暮らしには文字があふれています。新聞や雑誌、書籍にはじまり、店頭で目にする商品パッケージや企業・ブランドのロゴタイプ、街の中で出会う看板やサイン。さらにはスマートフォンやWEBと、文字の佇む場所は限りなく広がり、メッセージや情報を伝える手段として文字はなくてはならない存在です。

「タイポグラフィ」とは、文字による視覚的なコミュニケーションの手法であり、それらを豊かにおこなう技術です。文字そのもののもつ力に魅せられ、文字での表現向上と、文化の発展を目的として、私たちは活動しています。

日本タイポグラフィ協会 (Japan Typography Association = 略称 JTA) は、1964年に結成された「日本レタリングデザイナー協会」を母体として、広義のタイポグラフィの発展を願い、1971年に名称変更して生まれました。設立より50年。グラフィックデザイナーはもとより、タイプデザイナー、研究者、教育者などの国内の個人会員と法人会員、海外会員とスチューデントサポーター会員 (個人129名、法人16社、海外7名、スチューデントサポーター8名。2020年6月現在) で構成されています。

日本タイポグラフィ協会は、平成13年に特定非営利活動法人 (NPO) の認証を受け、現在では公益法人として活動しております。

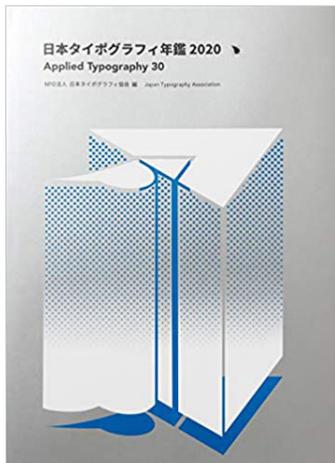


協会のシンボルマーク
1971年の名称変更の際に設定。日本語の読点をシンボルとし、日本のタイポグラフィックデザインの発展と啓蒙への思いが込められています。

Design: Eita Shinohara



タイポグラフィと関連する代表的な視覚的フィールド。



Design: Noriyuki Kasai
Chief editor: Koshi Ogawa

今をあらわす文字を収める。

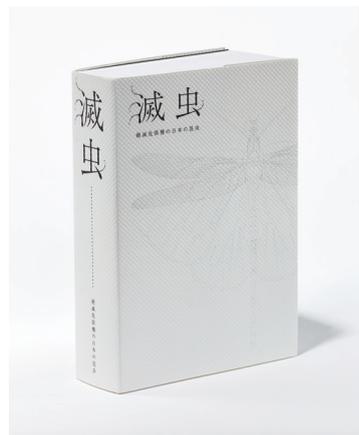
『日本タイポグラフィ年鑑』の発行。

さまざまなコミュニケーションで必要とされるタイポグラフィ。その巧みな姿を収録した『日本タイポグラフィ年鑑』。1969年に『日本レタリング年鑑』としてスタートし、2020年には41冊目が世に送り出されました。作品は広く海外からも一般公募で受け、会員から選ばれた審査委員の厳正な審査により全応募作品の中から「グランプリ」1点、各部門ごとに「ベストワーク賞」が授与されます。2009年からは次代を担う若者への登竜門として「学生部門グランプリ」を新設。この年鑑は当協会の財産であり、海外でも評価の高いタイポグラフィ・デザインの記録です。

また、2019年には過去発刊された40冊の年鑑からロゴ・シンボルマークの名作約1000点を掲載したアーカイブ集『日本のロゴ・マーク50年』(※①)を発刊。タイポグラフィの歴史を縦覧し、「今」を知ることができる永久保存版となっており好評を博しています。



2020グランプリ「新琴似天舞龍神 記念品パッケージ」
AD・D: 早坂宣哉 / CL: 新琴似天舞龍神



2020学生グランプリ「滅虫」
AD・D: 黒木渉 / SN: 大阪芸術大学



2020ロゴ部門ベストワーク「発酵熟成熟鮮魚」
AD・D: 中市哲 / CL: 川崎北部市場



2020グラフィック部門ベストワーク「発酵食の八幸ハ」
AD・D: 平井秀和 / CL: 大和屋守口漬総本家



※①当協会では、2018年から『日本のロゴ・マーク50年』の編集委員会を発足し、過去の年鑑の膨大なアーカイブを研鑽しながら編集作業に取り組み、パイ インターナショナルを通して発行。掲載作品は、あくまで年鑑に掲載された物を基本としており、その扱いについては、現在の視点での評価ではなく、その当時の評価を尊重し、時代を検証する資料性のある書籍となっています。B5判 480ページ (240ページ in Color) 価格: 本体3,990円+税 編集長: 高橋善丸

文字への情熱を讃える。

協会顕彰、佐藤敬之輔賞。

NPO法人の認可を受けた2001年より、タイポグラフィの重要性和科学性をアピールするため、賞を設置しました。タイポグラフィに関するさまざまな活動をおこない、協会発足と活動の基盤となった故・佐藤敬之輔氏の名を冠した協会顕彰。これまでデザイナーやタイポグラファー、研究者といった、タイポグラフィに多大なる情熱を傾けた個人・企業団体へ授与しています。他のデザイン団体の賞とは一線を画した、特色ある顕彰です。

最新の情報はWEBサイトにてご確認ください。

●第1回(2002)

個人：矢作勝美 企業団体：有限会社 字游工房

●第2回(2003)

個人：中村征宏

企業団体：株式会社 大修館書店 [大漢和辞典]

株式会社 モリサワ [モリサワ・タイポグラフィ・スペース]

●第3回(2004)

個人：杉浦康平+石井裕子

企業団体：有限会社 嘉瑞工房

●第4回(2005)

個人：水井 正

企業団体：凸版印刷株式会社 [印刷博物館]

●第5回(2006)

個人：森 啓

企業団体：グループタイポ

●第6回(2007)

個人：小塚昌彦

企業団体：学校法人 桑沢学園 桑沢デザイン研究所

学校法人 武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科

●第7回(2008)

個人：ヘルムート・シュミット

企業団体：日本新聞教育文化財団 [日本新聞博物館]

●第8回(2009)

個人：綿貫宏介

企業団体：株式会社 ジャストシステム

●第9回(2010)

個人：向井周太郎

企業団体：株式会社 誠文堂新光社 [アイデア編集部]

●第10回(2011)

個人：篠原榮太

企業団体：大日本印刷株式会社 [秀英体開発室]

●第11回(2012)

個人：小宮山博史

企業団体：株式会社 竹尾

●第12回(2013)

個人：浅葉克己

企業団体：ミサワホーム株式会社 [ミサワホームカレンダー 25周年記念展]

●第13回(2014)

個人：勝井三雄

企業団体：株式会社 工作舎

●第14回(2015)

個人：石川九楊

企業団体：劇団黒テントの宣伝美術と平野甲賀

●第15回(2016)

個人：橋左近

企業団体：株式会社イワタ

●第16回(2017)

個人：今田欣一

企業団体：有限会社美篤堂

●第17回(2018)

個人：小林章

企業団体：アドビシステムズ株式会社

●第18回(2019)

個人：羽良多平吉

企業団体：フォントワークス株式会社

●第19回(2020)

個人：臼田捷治

企業団体：朝日新聞社 編集局 デザイン部

文字をアピールする。

展覧会や講演会、セミナーを開催。

『日本タイポグラフィ年鑑』の優秀作品を展示する「日本タイポグラフィ年鑑作品展」、国際交流の一環として、ニューヨーク・タイプ・ディレクターズ・クラブ (N.Y. TDC) と提携し、その優秀作品を展示する「ニューヨークタイプディレクターズクラブ展」を毎年開催しています。これらの展覧会は実物のグラフィック作品が持つパワーやディテール、エディトリアルデザインにおける装幀や文字組みの絶妙さなどを、「手にとって実感させること」を目的としています。作品写真では伝わってこない生のボリュームを多くの人々に体感いただいています。その他、会員参加の展覧会、セミナーなども開催し、文字の魅力を社会にアピールしています。

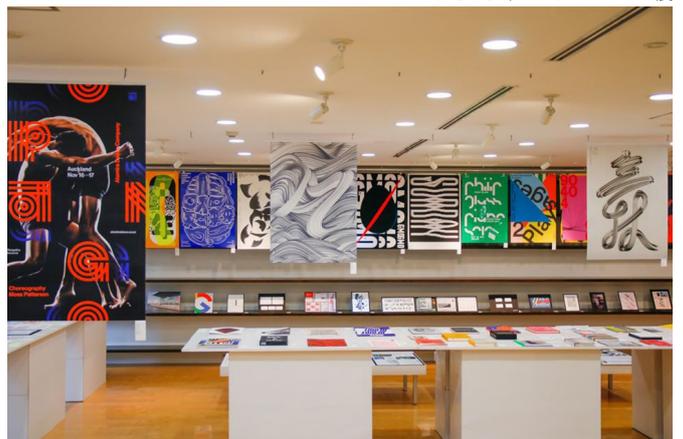


香港デザイナー協会 (HKDA) と日本タイポグラフィ協会共催のシンポジウム (2019.6) 東京工芸大学にてHKDA主催の「グローバルデザイン賞2018」コンテスト受賞者と日本タイポグラフィ年鑑2019受賞者が登壇し、講義やクロストークを行なった。

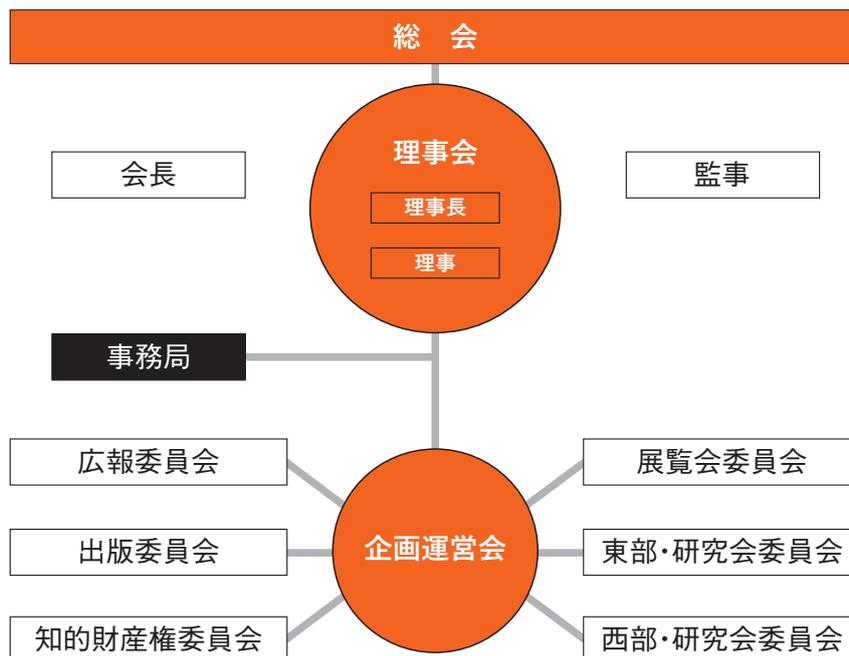


日本タイポグラフィ年鑑 2019表彰式 (2019.4)

日本タイポグラフィ年鑑2019 作品展・第65回ニューヨーク タイプディレクターズクラブ展



協会の構成



●総会

総会は全会員で構成し年1回開催します。会の運営に関する重要事項の議題を審議・決定する最高機関です。またタイポグラフィ関連の論議や情報交換、親睦を目的とした交流の場です。

●理事会

理事会は選挙で選ばれた9人の理事で構成し年6回開催します。全会員を代表して、協会の年間および長期的基本方針や協会全体の諸問題を審議し、議題を総会に提案する機関です。また総会で議決した案件の執行や、総会の議決を要しない業務の執行をおこないます。会議には理事の他、監事や事務局長も参加します。理事の役割は、理事長、副理事長、専務理事（事務局担当）、財務、海外、事業、総務、行事、各委員会担当を担い、会の活動を円滑に推進します。

●企画運営会議

企画運営会は、役員と各委員会の委員長で構成し年4回開催します。理事会の基本方針と各委員会の事業計画との調整を図り、また事務局との実務調整をとりながら協会として統合された活動方向を審議・決定します。会議には一般会員の参加も自由ですが議決権はありません。

●事務局

協会運営のための日常業務とともに総会・理事会・企画運営会等で決定された事項の事務的な補佐をする活動推進機関であり、内外に対する協会を代表した窓口です。

●各委員会の役割

以下の委員会は、希望する5名以上の委員によって構成し、定期的に開催しています。各委員会は目的に応じて活動と業務に取組み、時には他の委員会と連携します。また、新企画を企画運営会に提案したり、決定した事項の推進業務をおこないます。

●広報委員会

協会の内外に対しての広報活動を担当。『タイポグラフィックス・ティー』の企画・編集業務をおこないます。

●出版委員会

『日本タイポグラフィ年鑑』の運営と編集業務をおこないます。

●知的財産権委員会

タイポグラフィ作品の法的権利の分析や過去の係争事例の資料収集、権利保護に関する調査研究・啓蒙をおこないます。

●展覧会委員会

協会が主催する展覧会の企画運営、および、関連交流事業等の企画・推進をおこないます。

●東部・研究会委員会

関東地区を中心に東日本地区の会員で組織され、タイポグラフィ全般の研究や情報交換、親睦をおこないます。

●西部・研究会委員会

関西地区を中心に西日本地区の会員で組織され、タイポグラフィ全般の研究や情報交換、親睦をおこないます。

入会のご案内

当協会は、日本のタイポグラフィの啓蒙と発展を願い、一人でも多くの仲間を求めています。
活動の主旨にご賛同いただけましたら、ぜひ、ご入会お申し込みくださるようお願いいたします。

●入会資格

本協会の目的に賛同できる個人、法人及び団体。

●申込み

入会申込書（本書添付もしくはWEB）と以下の条件の作品をそえて、協会事務局までご送付ください。年6回開催される理事会での確認の上、書面により直接申込者にお知らせいたします。理事会での確認後、入会金と会費をお支払いいただきます。

●入会時の提出作品

個人の場合

作品2～5点。もしくは論文・著書数点。
作品は使用または発表したもので実力が充分判断できるもの。
作品の裏に作品番号、作家名、作品名、協力者、制作年、クライアントの他、必要があれば説明文を記入してください。

法人及び団体の場合

企業案内、もしくは事業案内、カタログなど。

●入会金

個人：30,000円

法人／団体：100,000円

●会費

個人：48,000円（半期ごとの請求 24,000円×2回）

法人／団体：96,000円（半期ごとの請求 48,000円×2回）

※中途入会の場合は、入会月から半期末の間を月割りとします。

※海外在住の個人会員、所在地が海外の法人／団体会員の会費は半額（円換算）となります。

●会員特典

- 『日本タイポグラフィ年鑑』への作品出品料割引ならびに『日本タイポグラフィ年鑑』の会員割引販売があります。
- 協会が発行する機関誌『タイポグラフィックス・ティー』（年3回発行）が無料で配布されます。
- 協会主催のセミナー、イベント、シンポジウムなどに優先的に参加できます。
- 各委員会に所属することで、各出版事業、展覧会運営事業など、さまざまな研究活動を行うことができます。
- 2年に一度発行される『タイポグラフィックス・ティー会員名簿号』などで作品を発表する機会が得られます。
- 協会公式ウェブサイト・ウェブポートフォリオにて、作品を掲載することができます。
- 協会公式ウェブサイトならびにフェイスブックページに個展やグループ展の開催情報を掲載することができます。
- E-mail（もしくはファックス）による「E-Information」にて、協会員主催の展覧会情報やイベント、その他セミナーやデザインコンペなどの情報を発信いたします。また個展やイベント情報を会員へ発信することができます。
- 「文芸美術国民健康保険」に加入できます。
文芸美術国民健康保険▶ <http://www.bunbi.com>

詳細および不明な点は事務局までお気軽にお問い合わせください。



JAPAN TYPOGRAPHY ASSOCIATION

特定非営利活動法人(NPO)

日本タイポグラフィ協会

〒103-0024

東京都中央区日本橋小舟町3-12

バルコ日本橋ビル7階

TEL.03-6661-7627 FAX.03-6661-7628

office@typography.or.jp

<https://www.typography.or.jp>

June, 2020

Edit & Design: Yoshiharu Osaki

www.typography.or.jp